くらしナビ
環境

気候変動緩和へ 国際協力が使命

ブラジル環境・気候変動相 マリナ・シルバさん

「環境保護なくして発展はありえない」。アマゾン熱帯雨林の保護活動で知られるマリナ・シルバさん(65)がブラジル環境・気候変動相に就任した。前政権下で森林破壊は加速したとされ、今後保全をどう進めるのか。毎日新聞の書面インタビューで決意を語った。

ルラ大統領（右）と手を取り合うマリナ・シルバさん＝1月1日、Acervo Palácio do Planalto（プラナルト宮殿所蔵）

Marina Silva　1958年、ブラジル・アマゾン奥地に生まれる。幼少期は家業のゴム樹液採取を手伝い、16歳から学校に通い始めた。大学卒業後、環境保護と労働組合運動に身を投じ、36歳で上院議員に初当選。2003年に環境相に就任し、森林伐採率削減に尽力。15年に毎日新聞社の招きで初来日した。

●アマゾン基金が復活

――2022年10月の大統領選でルラ氏が返り咲きを果たしました。シルバさんの環境相就任は第1次ルラ政権以来2回目で、今回は大臣の名称に「気候変動」も入りました。

◆ルラ大統領が、環境保全と気候変動対策を最優先課題として位置づけていることを大変うれしく思っています。22年11月にエジプトで国連気候変動枠組み条約第27回締約国会議（COP27）が開催されましたが、（私も出席した）その会議の中で、ブラジルが環境問題でかつてのような積極的な役割を取り戻すよう、国際社会から大きな期待を寄せられていると感じました。我が国は自然環境に対する責務を自覚しており、期待に応えます。

ただし（ボルソナロ前政権の）過去4年間で、特にアマゾンで環境犯罪が増加し、処罰されてこなかったことで、環境問題に関するガバナンス（統制）は破壊されてしまいました。すべてを再構築するには、大きな努力が必要です。

――ルラ政権下で環境政策は大きく変わりますか。二酸化炭素（CO_2）吸収源としても重要な熱帯雨林の保全や、先住民族の保護は進みますか。

◆（違法な）森林伐採がもたらす損害は計り知れず、ブラジルで飢餓が増加し、何百万もの人々が絶対的な貧困状態に置かれているのも偶然ではありません。気候変動の進行は明らかで、大災害によって農村部でも都市部でも、人命、農作物、物資、インフラが失われています。

ルラ大統領は就任当日、森林破壊ネット（正味）ゼロを宣言し、環境保護や持続可能な開発のための政策に資金を供出する「アマゾン基金」を復活させる政令に署名しました。また「先住民省」を創設し、先住民の重要性を明確に打ち出しました。ブラジルは今後、社会的・環境的責任を伴う新しいタイプの開発へと向かいます。

――広大な熱帯林を有するコンゴ民主共和国やインドネシアとの協力関係の強化は進展しますか。

◆間違いなく進展します。ルラ大統領は気候変動に苦しみ、経済的な圧力も含め、森林や生態系に大きな圧力を受けているアフリカやアジアの国々、そしてラテンアメリカの隣国と協力することがブラジルの使命だとしています。私たちは飢餓と貧困の撲滅、気候変動の緩和に向け手を携えていくのです。

――開発と環境保護は両立可能なのでしょうか。

◆自然は、私たちの富、食料、健康、生命の源です。環境保護なくして発展はあり得ません。

●エネルギー転換急務

――ロシアによるウクライナ侵攻後、世界的に緊張が高まっています。天然ガスや原油の価格が高騰し、石炭回帰の動きもあります。21年のCOP26では、世界の平均気温の上昇幅を産業革命前から1・5度に抑えることを世界目標にすることに合意しました。実現に向け、世界がすべきことは何でしょうか。

◆エネルギー転換がますます必要になっています。環境汚染をもたらすエネルギーを、クリーンで再生可能なエネルギー源に置き換えていかなければなりません。問題は、それがどのくらいの速さで置き換わっていくのか。もし非常にペースが遅ければ、環境や気候変動はさらに悪化し、紛争や危機、人類の大移動、経済破綻を引き起こすでしょう。ペースが速ければ、地球温暖化を食い止めることができ、温暖化に由来する問題も少なくてすみます。

文明は岐路に立たされています。新しい世代は既にこのことを理解しており、だからこそ若者たちは世界中の政治、経済のリーダーに、より大きなコミットメント（より高い目標設定をすること）を求めているのです。

●指導的役割担いたい

――COP27では、気候変動の「損失と被害」に特化した、途上国支援のための基金を設立することに合意しました。一方で、石炭火力発電の段階的な「削減」から「廃止」に移行することはできず、温室効果ガス排出削減をさらに強化するための合意には至りませんでした。

◆ブラジルだけでなく世界全体でここ数年、経済危機や戦争、政治的な停滞により、多くの重要な取り組みが中断されていました。（国連の「気候変動に関する政府間パネル＜IPCC＞」などの）科学的知見を取りまとめた報告書は警告のサインを発し、行動の遅れと危機感の欠如に対し注意を促しています。COP27でさらなる取り組みや目標の合意ができなかったことで、今後ある時点で劇的な形で問題が表面化するのではと危惧しています。

ブラジルは、そういった取り組みや目標に対し、もっと熱心に大胆に向き合うよう、他国を励ます指導的役割に戻れるように努力します。

――ルラ大統領は25年にアマゾン流域の都市でCOP30を開催する意向を表明しています。

◆我が国にとっても南米大陸の近隣諸国にとっても、大きな責任を負うのと同時に、（気候変動対策強化に向けた）大きなインセンティブ（動機付け）になります。環境政策において目に見える成果を上げるための準備も必要です。

そうした成果は、アマゾン基金を支援するドイツやノルウェーなどの政策パートナー、サポーターとして参加するすべての国、人々の成果と言えます。23年のCOP28では、新たに大胆な公約を掲げることができればと考えています。【山口昭】